

SKYMENU 活用授業 実践レポート

お名前	佐伯 友嘉	学校名	神戸市立宮本小学校
実施学年	6	教科	社会科
単元名	「今に伝わる室町の文化と人々の暮らし」過去から現代へ～つながる・考える・動く歴史授業～		

《学びを深めたいポイント》

小学校学習指導要領解説－社会編－（平成 29 年度告示）において、主体的・対話的で深い学びの実現のために、

児童が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが大切である。そのためには、単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向性を重視するとともに学習内容・活動に応じた振り返り場面を設定し、児童の表現を促すようにすることなどが必要である（小学校学習指導要領解説－社会編－、p8）

と述べられている。

このような授業改善と ICT の活用を考えていくうえで、社会科の授業において以下のポイントを設定した。

【ポイント1】

・授業の単元の初めには、自らがその時代について調べ、自ら調べたい課題を設定すること

【ポイント2】

・すべての児童が調べたことを共有し、さらに疑問を深めたり、より調べたりすることで社会的な見方・考え方を育成する

【ポイント3】

・時代が変化するごとに児童が考えた課題に振り返ることで、俯瞰した視点から課題を比較、考察し、現代社会への関連性を意識しながら歴史学習を行う

以下の3つのポイントを設定し、授業を行っていく中で、児童が調べたことを互いにより探求したり、事象ごとのつながりを考えたりと対話的な学びをする児童が見られた。また、現代社会での諸問題に対して、過去の出来事との類似性を考え、解決策を考えようとする児童の姿も見られた。

《SKYMENU 活用のポイント》

①「気づきメモ」の中で、テーマごとにグループを設定し調べたい課題を考えたり、自分なりに調べたりして、個々の興味・関心や探求課題に応じて、学びを深めることができる。

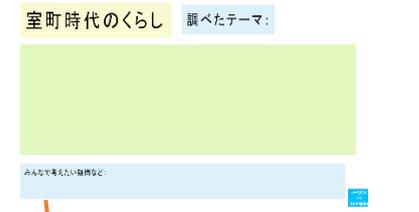
②「気づきメモ」の中で、リアルタイムに自分の調べていることと他人の考えとを比較をしながら調べることができ、自然とテーマごとの小グループを作り、対話をすることができる。

③「気づきメモ」で交流したことを「発表ノート」に整理することで、1時間の学びを整理することができる。

④「発表ノート」でまとめたことをもとに単元の課題を考えることで、常に、最初の学びに対して、単元を通して貫くことができる。

⑤「発表ノート」で作成した課題に対して、授業や単元を通してどのように迫っていくのか自分なりの学習を進めることができる。

《実践内容》

	学習活動	SKYMENU 活用場面	活用のポイント
導入	<p>1、新たに学習する時代について知る。</p> <div data-bbox="204 488 1026 600" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>室町時代の暮らしについて、衣・食・住・文化について調べ、自分の課題を考えよう</p> </div>		<p>・事前に児童が歴史の重要ポイントとして考えたテーマ(衣・食・住・文化・生活)ごとにランダムにグループを振り分けておく。</p>
展開	<p>2、自分のテーマについて教科書やGIGA 端末で調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ 衣 ・2グループ 食 ・3グループ 住 ・4グループ 文化 <p>3、同じテーマに対して調べた児童の意見に対して、反応や付け加えをする。</p> <p>4、発表ノートに自分のグループの意見をまとめる。</p> <p>5、発表ノートを提出し、ほかのグループの児童と交流する。</p>	  <div data-bbox="619 1137 826 1451" style="border: 1px solid blue; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>GIGA で情報をまとめる児童</p> </div> <div data-bbox="850 1137 1066 1529" style="border: 1px solid orange; border-radius: 10px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>ノートで情報をまとめる児童</p> </div> <div data-bbox="639 1529 842 1619" style="border: 1px solid orange; border-radius: 50%; padding: 10px; text-align: center; color: white; font-weight: bold;"> <p>自己選択</p> </div>	<p>・インターネットの記事については出典について明記させ、記事の正誤を判断できるようにする。</p> <p>・友達の見解や記事については「お気に入り」や「いいね」をしておき、後のまとめに使えるようにする。</p> <p>・友達の見解に質問をすることで、それぞれの児童の学びを他者視点から深めさせる。</p> <p>・提出箱を相互に見ることができるよう設定し、それぞれのグループの要点についてまとめさせる。</p> <p>・ノートにまとめたい児童はノートに、発表ノートを詳しくしたい児童はさらに詳しくまとめる。</p>
まとめ	<p>6、調べたいテーマを発表ノートに書く。</p> <p>※発表ノートで児童が互いのテーマを見合うことができるようにする。</p> <div data-bbox="188 1921 1034 2033" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>自分の課題をもとに、単元計画を作り、室町時代について学習を進めよう</p> </div>		<p>・調べたい疑問について交流し合い、全体のテーマとしたい疑問を考えさせる。</p>

《実践を振り返って》

気づきメモで単元の最初に課題を設定し、共有していくということを社会科の歴史の単元で繰り返し行った。初めは、「縄文時代」。次の単元は、「弥生時代」と続けていくうちに、児童の自分自身の学びが深まっていくことを感じました。例えば、最初、インターネットで調べたことをのせているだけであった児童が、時代が進むにつれて、今までの時代との比較や現代社会との比較などをコメントで残すようになりました。そのコメントは必然的に気づきメモの機能である「いいね」を集め、他の児童も同じように比較をして考えるようになりました。

また、発表ノートにまとめることで、児童が「いつでも、自分のタイミングで」友達の意見を見ることができます。テーマはその時代ごとにランダムなため、違うテーマになっても他の友達の意見を見れば、友達の視点をもって同じように調べることができます。

このように、気づきメモには、意図的に行っていた「友達のよいところを交流し、自分に取り入れる」といったことをリアルタイムに行うことができるというメリットがあり、自分に合った学びのスタイルで学習を進めていくことができます。特に、個別最適な学びと協同的な学びの両立のために、気づきメモと発表ノートを掛け合わせていくことが、より効果的であると考えます。

今後は、児童が考えていった疑問や気づきメモの質に着目して、児童が自ら学習する中で、より歴史的な見方・考え方を習得できるような発問や指示について検討していきます。